愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第9号，pp.77～85,March,2024

保護者が小学校教師に抱く信頼感についての質的検討（2）
―母親の信頼感に着目して―

高田　実香*　鈴木　伸子†

*愛知県スクールカウンセラー
†心理講座

A qualitative study of parents' trust in elementary school teachers II:
Focusing on the trust of students' mothers

Mika TAKATA* Nobuko SUZUKI†
* *School Counselor of Aichi Prefecture*

要　　約

本研究のテーマは、保護者が小学校教師に抱く信頼感の特徴について探索的に検討することであった。本稿では、高田・鈴木（2023）で得られた【保護者の要因】の一部であると考えられる ①母親の一般的な信頼感の傾向、②母親の過去の教師（自身が小学生だった頃の教師）に抱く信頼感と、保護者として子どもの担任教師に抱く信頼感にどのような関連があるかについて質的に検討することを目的とした。12 名の母親に半構造化面接を実施し、それぞれの語りについて KJ 法を援用して切片化を行った。母親一人一人の信頼感の傾向をつかむため、構成的文章完成法（片口・早川，2000）の反応文の記号化を参考にし、得られた切片を分類して検討した。その結果、①母親自身の一般的信頼感と担任教師に抱く信頼感は関連が認められたが、保護者として子どもの担任教師に抱く信頼感は情報依存的信頼（山岸，1998）の側面が強く、一般的信頼感とはその性質が異なることがうかがえた。②母親の過去の教師（自身が小学生だった頃の教師）に抱く信頼感は、保続されていると考えられたが、保護者として子どもの担任教師に抱く信頼感は、人生経験、価値観、時代や環境の変化が影響して、母親個々に変化していくことが示唆された。本研究が、教師と保護者の連携のために、学校側から保護者に働きかけを行う際の一助となることを期待している。

Keywords:　保護者　信頼感　小学校教師　母親

Ⅰ　問題と目的

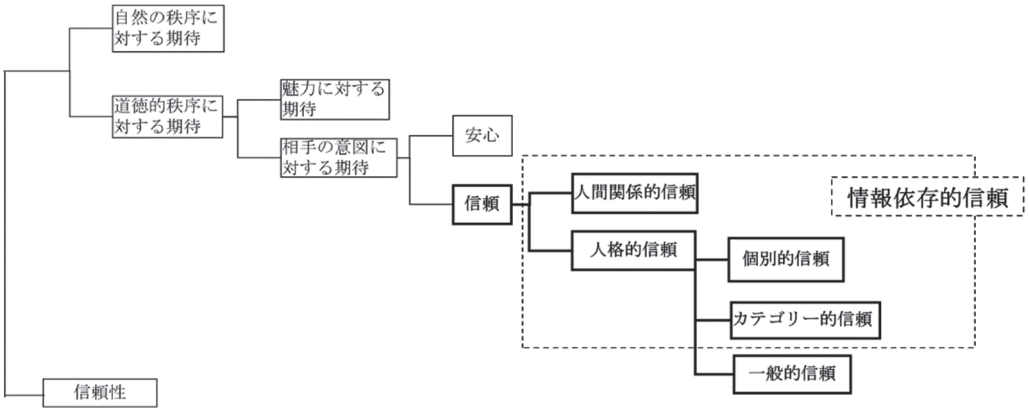
近年、授業の質の向上、小中の円滑な接続、多面的な児童理解、教師の負担軽減を目指し、小学校高学年からの教科担任制の導入（2022年度を目途）が打ち出され（中央教育審議会，2021）、従来の日本型学校教育の改革が進められてきている。多くの小学校において学級担任制をとってきている我が国において、小学校教師が子どもや保護者にとって重要な存在であることは言うまでもない。

教師と保護者の信頼についての研究は、教師の取り組みに関するもの（鈴木，2012 など）、校内連携に関するもの（松田，2011 など）、教師と保護者の信頼関係構築（米澤・尾﨑，2012）など保護者からの信頼を得る教師像に関わる研究の他に、発達や行動に課題を抱える特定の子どもの保護者支援の研究（原田，2016 など）がある。しかし、教師と保護者の関係に焦点を当て、保護者自身の信頼感に着目した研究はあまり見当たらない。

山岸（1998）は、信頼という言葉に含まれる多義性に着目し、信頼についての概念整理を行った（Figure 1）。山岸は「信頼性」は信頼される側の特性であるのに対して、「信頼」は信頼する側の特性であることを区別した。さらに、信頼を他者一般に対する「一般的

† *心理講座　Department of Psychology，Aichi University of Education，Kariya 448-8542，Japan*

Figure 1　信頼についての概念的整理図（山岸，1998）を一部改変



信頼（general trust）」と特定の相手についての情報にもとづく「情報依存的信頼（information-based trust）」に区別した。また、「一般的信頼」とは、他者の信頼性（他者がどの程度信頼できる人格の持ち主であるか）のデフォルト値（他に判断材料がないときに用いる値）であり、他者一般に対する信頼であるとしている。一方、「情報依存的信頼」は、特定の相手との直接的な接触から得られる直接的な情報と、間接的な情報に基づく信頼であり、他の人からの評判、社会的地位、役割などの社会的カテゴリーなどの人格的信頼や、相手が自分に対して好意的な態度や感情を持っているという種の情報にもとづく人間関係的信頼も含むとしている。

これまでの信頼感の理論を包括的に捉えていると考えられる研究には、天貝（2001）、中井・庄司（2006）、村上他（2013）、杉本他（2019）などの研究がある。

天貝（2001）は、「自分への信頼」「他人への信頼」「不信」の３因子からなる信頼感尺度を作成し、信頼感の発達について一連の研究を行っている。その結果、裏切られ経験などの対人的で否定的な体験を克服し（青年期）、他者からの評価を中心として自らの信頼感を模索する段階（成人期前期・中期）から、他者からの評価や自分の社会的役割から離れて信頼感を獲得しようとする段階（成人期後期）へ、そして、他者への疑惑が生じ信頼感の再吟味を行う状態（老年期）へと移行する生涯発達的プロセスを示している。さらに、信頼感の発達に肯定的な影響を与える要因として受容経験、承認経験、親との親密な関わり経験をあげている。一方、否定的な役割を与える経験として対人的傷つき経験をあげている。さらに、信頼感の望ましい発達援助としては信頼感のコアとなるような大人を通じて人一般に対する不信を緩和し、徐々に信頼感に影響を与える対象を大人から友人へ、そして自分自身へと移行させていくことをあげている。

中井・庄司（2006）は、教師と生徒の信頼関係について、教師－生徒間の様々な課題が発生している現状を踏まえ、信頼の対象となる教師側の要因である「信頼性」と、生徒側の要因である「信頼感」の両側面から検討する必要性を指摘している。そして、このような観点から、中学生に調査を行い、「安心感」「不信」「役割期待」の 3 因子からなる「生徒の教師に対する信頼感（Students' Trust in Teachers）」尺度を開発し、一連の研究を行っている。中井（2009）は、中学生の過去の教師との関わり経験と教師に対する信頼感との関連を検討している。その結果、(1) 生徒の教師に対する信頼感のポジティブな側面である「安心感」「正当性」と、「教師からの受容経験」「教師との親密な関わり経験」が正の関連を示すこと、(2) 生徒の教師に対する信頼感のネガティブな側面である「不信」と、「教師との傷つき経験」が正の関連、「教師からの受容経験」が負の関連を示すことが明らかにしている。また、「教師との関わり経験」尺度の各下位尺度得点を用いて調査対象者を類型化し、(3) 教師とのポジティブな経験をしている群は教師に対する信頼感が高いこと、(4) 教師とのネガティブな経験のみをしている群、ポジティブな経験・ネガティブな経験共に少ない群は教師に対する信頼感が低いことを明らかにしている。生徒の教師に対する信頼感には、従来指摘されてきた教師の信頼性の側面だけではなく、生徒側の個人的な心理的要因も関連している可能性を示唆している。さらに、中井（2012）は、生徒の教師に対する信頼感は、「生徒」「教師」「環境的要因」の 3 つの要因が関連し合って構築されていくとする生徒の教師に対する信頼感に対する包括的仮説モデルを提唱している。

杉本他（2019）は、子どもと教師という密接にかかわりがある信頼関係と、保護者と教師という子どもを介した信頼関係とでは、その性質が異なるということを指摘したうえで、日本において保護者と教師の信頼関係は、「信頼性」「信頼感」の両側面とも研究がなさ

れていないことを指摘し、保護者側が教師をどのように認知しているのか明らかにするために、「保護者による教師の信頼性認知（Parental Cognition of Trustworthiness of Teachers；以下PCTTとする）」を測定する尺度を開発している。「PCTT」尺度は「教師の役割遂行能力」「規律的指導」「子どもに合わせた指導」「子どもが示す好意」の4因子から構成されている。今後の課題として、保護者の学校関与の頻度との関連、トラブル時の対応満足度との関連、保護者側のパーソナリティ要因の検討をあげている。

これらの先行研究を踏まえ高田・鈴木（2023）は、これまでの信頼感の理論を包括的に捉えた視点から保護者の信頼感に着目し、保護者が小学校教師に抱く信頼感の性質や特徴、関連する要因についてインタビュー調査を通して探索的に検討した。その結果、保護者が教師に抱く信頼感は、性別や年齢といった教師のデモグラフィック要因ではなく、【教師の専門性】を重視して形成されていくことを示した。また、【教師との関係性】【学校信頼】【教師との接触】が関連して維持されていき、【子ども】を介して教師への信頼感が維持されていること、信頼感の形成や維持には【印象の保続】が影響している場合もあることを示した。さらに、保護者が教師に信頼感を抱くかどうかは、【担任の要因】だけでなく、【子どもの要因】や【保護者の要因】が関与している可能性を示唆した。

本研究では、高田・鈴木（2023）で得られた【保護者の要因】の一部であると考えられる①母親の一般的な信頼感の傾向、②母親の過去の教師（自身が小学生だったころの教師）に抱く信頼感と、保護者として子どもの担任教師に抱く信頼感にどのような関連があるかについて質的に検討することを目的とした。本研究が、教師と保護者の連携のために、学校側から保護者に働きかけを行う際の一助となることを期待している。

Ⅱ　方法

1　調査協力者

調査は2021年10月に実施した。現在小・中学生の子どもをもつ保護者を便宜的にサンプリングして、調査協力者を募った。調査協力の依頼に際して、思い出すと嫌な気分になる出来事については話さなくてよいこと、記録（録画や録音内容）は本研究のためだけに使用し、他の目的で用いることはないこと等の倫理的配慮を口頭で説明した。一般的に小学校の担任教師と主なやりとりをすることが多いのは母親であることから、母親を対象とした。12名の母親から同意が得られ、研究協力に関する同意書に署名をしていただいた。調査協力者の概要はTable 1のとおりである。協力者の教育歴、就労状況は様々であった。居住地域は中部・近畿地方であった。海外で子どもを小学校に通わせた経験のある方も2名含まれていた。

Table 1 調査協力者の属性

母親ID	母親の年代	子の数
A	40代前半	3
B	40代前半	2
C	40代前半	3
D	40代後半	2
E	40代後半	3
F	40代前半	2
G	40代前半	3
H	40代後半	2
I	40代前半	2
J	40代前半	3
K	40代後半	2
L	40代前半	2

2　方法と手続き

新型コロナウイルス感染拡大防止及び調査協力者の諸般の事情を鑑み、オンラインによる半構造化面接法による個別のインタビュー調査をそれぞれ1回行った。インタビュー開始に際して、倫理的配慮についての不明点がないかを再度確認し、口頭で同意を得たうえで、インタビューは全て録音された。保護者の立場で最も信頼できる小学校の担任教師についてのインタビュー（高田・鈴木，2023）を実施した後、**質問項目1**「あなたは人を信頼するということについて、どう思われていますか。それは教師への信頼と比べてどうですか」、**質問項目2**「あなた自身が小学生だった頃の先生への信頼と保護者の立場で、お子さんの担任の先生への信頼とを比べるとどうですか」について尋ねた。

3　分析

録音された内容は、やまだ（2006）を参考にして、できるだけ忠実に逐語化した。ただし、個人情報を含む語りについては、個人の特定を避けるため、本質に影響しない程度に一部改変した。続いて、その逐語録を精読した後、属性を除き、設問ごとにエピソード単位で切片化を行った。切片化にあたっては、川喜田（1986）を参考にして、できるだけ調査協力者の語りを生かすことを心がけながら行った。

調査協力者ごとの信頼感の傾向をつかむため、得られた切片は、構成的文章完成法（片口・早川，2000）の反応文の記号化を参考に、切片の信頼感の内容が肯定（P）、中性（Nu）、否定（N）のいずれにあてはまるかという視点で3分類した。また、肯定と否定の相

反する感情があると思われた切片は両価（Amb）に分類した。調査協力者ごとの信頼感の傾向が把握できるように、切片が複数ある場合は、その内容から総合的に判断した。検討に際しては、第一筆者と臨床心理学を専攻する大学院生3名で個々に分類し、不一致であった分類内容については協議した。その後、第一筆者と第二筆者で最終的に協議し決定した。

Ⅲ　結果と考察

1　母親の一般的信頼感と保護者として子どもの担任教師に抱く信頼感の関連の検討

母親の一般的信頼感（山岸，1998）と保護者として子どもの担任教師（以下、担任教師とする）に抱く信頼感の関連について質的に検討した。**質問項目1**「あなたは人を信頼するということをどう思われていますか、それは教師への信頼と比べてどうですか」に対して61の切片が得られた。そのうち、一般的信頼感について得られた切片は23（Table 2）、担任教師に抱く信頼感について得られた切片は38（Table 3）であった。Table1 2とTable1 3の分類に基づいて、調査協力者の一般的信頼感と担任教師に抱く信頼感の傾向の対応をTable1 4で示し、語りから得られた切片の一部を提示（参照）しながら、考察をすすめる。

(1) 一般的信頼感と担任教師に抱く信頼感が同じ傾向の保護者（母親 ID：A、B、L、E、D、F、I、H、J）

一般的信頼感と担任教師に抱く信頼感が同じ傾向の母親は9名であった（Table4）。

一般的信頼感、担任教師に抱く信頼感ともに肯定（P）であるAさんは、次のように語られた。

> うん。信頼したいし、されたい。（信頼）するほうだね。（教師も）信頼したくて入るっていうか、相談するのも話すのも、信頼したくて入るみたいな。

Aさんの語りからは、教師とのよりよい連携を保護者の側から積極的に求め、担任教師に対する期待も高いことがうかがえる。

一般的信頼感、担任教師に抱く信頼感ともに両価（Amb）であるLさんは、次のように語られた。

> すぐには信頼できないけど。やっぱりずっと付き合っていく中で、この人大丈夫って思えてから、信頼することはできるのかな。私自身が人見知りなところあるから。…（教師も）じっくりですね。（様子見て）

Lさんの語りからは、一般的信頼感同様に、担任教師に抱く信頼感も慎重に育んでいくことがうかがえた。

Table 2　調査協力者の一般的信頼感の傾向

分類	母親ID	例	出現数（%）
P	A	うん。信頼したいし、されたい。(信頼）するほうだね。	7（30.4%）
	B	主人にはちょっと信用しすぎ、疑ってかかれと言われます。	
	K	割と信頼するほうだと思います。	
	G	多分（信頼）しやすいと思います。しやすくて、プラス思考なので、悪いことされても、…でもこういうこともあるよねで済むタイプです。	
Amb	L	すぐには信頼できないけど。やっぱりずっと付き合っていく中で、この人大丈夫って思えてから、信頼することはできるかな。私自身が人見知りなところあるから。…	3（13.0%）
	E	奥底では、この人大丈夫かなとか思ってる自分はありますけど、初めはそういうの隠して、騙されてみようかなっていう感じですかね。	
Nu	D	自然な行為かなと思っています。普通な行為と言うか	3（13.0%）
	F	人は一人では生きていけないから、人が人とつながるにあたって、一番根本的な部分だと思う。	
N	I	基本的にあんまり信頼できないタイプで。…上司に人に任せて…信頼しなさいって言われて、ちょっと信頼するようにしています。	10（43.5%）
	H	やっぱりあんまり（信頼）しないですね、そんなに。自分の決めたことに対して、ちょっと不安があるときには、参考程度に聞きますけど。	
	C	信頼する…。難しいですね。…その人がどれくらいできるんだろうっていうのを無意識にはかってるんだろうと思います。仕事でも。そうですね。	
	J	難しいですね。…今ですか？信頼、難しいですね。若い時の方が信頼してたような気がしますね。	

注：Pは肯定、Ambは両価、Nuは中性、Nは否定を示す

Table 3　保護者として子どもの担任教師に抱く信頼感の傾向

分類	母親ID	例	出現数（%）
P	A	（教師も）信頼したくて入るっていうか、相談するのも話すのも、信頼したくて入るみたいな。	5（13.2%）
	B	割と結構第一印象で決めるところがある。…、ちょっと上から「私は先生よ」っていう感じで言ってくる先生とかは話しかけない。	
Amb	L	（教師も）じっくりですね。うーん。（様子見て）	13（34.2%）
	G	そこまでの裏切られることが今までないんで、子どもたちがそんな扱いされたとか、…子どもたちがショック受けることだったら、多分ショック受けると思うんですけど、それがないんで。	
	E	理不尽な差別とかそういうの受けていないので、うちの子が。…なんかいい風にとってもらってるふうだと思うんですよね。うちの子たちは。だからいいんですけど。	
	K	やっぱり直接会う人の方が信頼できるので、…今、特に学校の先生と会う機会がないし。よく分からないところがある。…でも、信頼してると思います。先生なら大丈夫って。	
Nu	D	保護者として、母親としての立場と担任の先生の間に必ず子どもがいるので、子どもにとっての母親は担任を信頼していることこそ我が子にとっての安心につながると思っているので、…信頼をしています。	11（28.9%）
	F	時の流れによってもそれは変わっていくと思う。全部の人とそれ（信頼）を持たなければいけないわけではなくて、絆の強さみたいなのは先生と親（で変わっていくと思う）。	
	C	学校の先生への信頼はちょっと違う気がします。仕事の信頼と。ミスとかしてもちょっとフォローできる人かな。（信頼できるのは）…（先生への信頼は）その人って感じですよね。テクニックじゃなくって、人は人ですよね。	
N	I	今の先生は、いいところを見つけようと思っても、今のところ見つかっていないので、もうちょっと先生と話したりしないといけないのかなと思うけど、そのタイミングが今ない。	9（23.7%）
	H	（教師に対しても）信頼はしてないですよね。その人の考え方ですから。ちゃんと授業をしてくれれば、それが第一で。	
	J	正直あんまりしてないですね。はい。	

注：Pは肯定、Ambは両価、Nuは中性、Nは否定を示す

Table 4　一般的信頼感と担任教師に抱く信頼感の対応

一般的信頼感＼担任教師に抱く信頼感	P	Amb	Nu	N
P	A、B	K、G		
Amb		L、E		
Nu			D、F	
N			C	I、H、J

注：太字アルファベットは母親IDを示す

一般的信頼感、担任教師に抱く信頼感ともに否定（N）であるＩさんは、次のように語られた。

> 基本的にあんまり信頼できないタイプで。私自身は。（小・中学校の）いろんな体験があるので。人は基本的に信頼しないようになっていたんだけど。仕事とかでも他の人に任せるのがすごく嫌なんですけど、…上司に人に任せて、…信頼しなさいって言われて今は、ちょっと信頼するように心がけています。
> いいところを見つけるようにしています。…たしか私が管理職になったくらいに○○先生に出会ったので、だからちょうど人を信頼しないといけないなっていうときに出会ったから余計信頼度が深まったのかなと思います。管理の勉強をしだしてから。

Ｉさんは、友人関係の不信から人を信頼しないようにしていたが、職業上（対人援助職）の経験を経て、教師と保護者の信頼関係が、子どもの安心につながることに気づき、保護者の側から働きかけようとする気持ちに目が向いてきたと考えられ、「親として」の役割の他に、職業を通した人格的変化が認められる。

以上のことから、他者一般に抱く信頼感のデフォルト値である一般的信頼感は、担任教師に抱く信頼感に関連があると考えられる。

⑵　一般的信頼感と担任教師に抱く信頼感が異なる傾向の保護者（母親 ID：K、G、C）

一般的信頼感と担任教師に抱く信頼感が異なる傾向の母親は３名であった（Table 4）。

一般的信頼感肯定（P）、担任教師に抱く信頼感両価（Amb）であるＫさんは、次のように語られた。

割と信頼するほうだと思います。やっぱり直接会う人の方が信頼できるので、…今、特に学校の先生と会う機会がないし。よく分からないところがある。…でも、信頼してると思います。先生なら大丈夫って。

Kさんの語りからは、コロナ禍において実際に先生と会う機会が減ったこともあり、よく分からない先生ながらも、「親として」担任教師を信頼していたいという期待感がうかがえる。語りからKさんは対面で会話して、教師の役割遂行等に関する情報を集める傾向が高いと推測されることから、現段階では担任教師のこういった情報は得られていない可能性がある。

一般的信頼感肯定（P）、担任教師に抱く信頼感両価（Amb）であるGさんは、次のように語られた。

多分（信頼）しやすいと思います。しやすくて，プラス思考なので，悪いことされても，…でもこういうこともあるよねで済むタイプです。でも、…すごく自分が認めた人じゃないと名前覚えてないと思います。…印象にない先生がいる。自分の中でやってもらったなとか、思い入れのあった先生の名前は残るんですけど。そこまでの裏切られることが今までないんで、子どもたちがそんな扱いされたとか、…子どもたちがショック受けることだったら、ショック受けると思うんですけど、それがないんで。

Gさんの語りからは、教師の役割遂行等の情報を判断し、自分なりに担任教師を認めることができれば信頼感を抱くこともあるが、そうでない場合は特に信頼感を意識していない可能性がうかがえた。さらに、Gさんの「子どもたちが」という語りからは、担任教師に抱く信頼感は教師からの子どもの見方や評価を介して変化する可能性が強くうかがえた。

一般的信頼感否定（N）、担任教師に抱く信頼感中性（Nu）であるCさんは、次のように語られた。

信頼。信頼する。難しいですね。…その人がどれくらいできるんだろうっていうのを無意識にはかってるんだろうと思います。仕事でも。学校の先生への信頼はちょっと違う気がします。仕事の信頼と。（仕事で信頼できるのは）ミスとかしてもちょっとフォローできる人かな。…（先生への信頼は）その人って感じですよね。テクニックじゃなくって、人は人ですよね。例えば、考え方が違う人（先生）がいたんですけど、…それはそれかなと思ったり、信頼してると思います。

Cさんは一般的信頼感が否定（N）の傾向であるが、担任教師に対しては、人間性を重視し、価値が合わないと感じることがあっても、信頼しようとしていることがうかがえる。これは、一般的信頼感と担任教師に抱く信頼感の性質の違いがあることを示唆している。そして、担任教師に抱く信頼感においては「親として」の役割感が強く働いている可能性がうかがえた。

２　母親が小学生だった頃の教師に抱く信頼感と子どもの担任教師に抱く信頼感の関連の検討

母親の過去の教師（自身が小学生だった頃の教師）に抱く信頼感と担任教師に抱く信頼感の関連について検討した。**質問項目２**「あなた自身が小学生だった頃の先生への信頼と、保護者の立場で、お子さんの担任の先生への信頼とを比べるとどうですか」に対して49の切片が得られた（Table5）。Table1 5とTable1 3の分類に基づいて、調査協力者の過去の教師に抱く信頼感と担任教師に抱く信頼感の傾向の対応をTable1 6で示し、語りから得られた切片の一部を提示（参照）しながら、考察をすすめる。

(1) 過去の教師（自身が小学生だったころの教師）に抱く信頼感が肯定　(P) である母親（母親 ID：A、B、E、D、F、H）

過去の教師（自身が小学生だったころの教師）に抱く信頼感が肯定（P）であった6名の保護者のうち、担任教師に抱く信頼感が両価（Amb）、中性（Nu）、否定（N）に変化した母親は4名であった（母親ID：E、D、F、H）。

過去の教師に抱く信頼感は肯定（P）であったが、担任教師に抱く信頼感は両価（Amb）であったEさんは、次のように語られた。

（教師への信頼は）そんなに変わってないと思います。…基本的な先生に対する考えは変わってないんだけど、自分が年取ると一言言いたくなるのはあるんだと思います。うちらの方が経験あるんだしと思ってしまったり、若い先生だとそうですね。

Eさんの語りからは、教師に抱く信頼感は保続されていると考えられるが、人生経験を経て、担任教（特に若い教師）には、ときに「親として」厳しい見方になることがあることがうかがえた。

過去の教師に抱く信頼感は肯定（P）であったが、担任教師に抱く信頼感は中性（Nu）であるDさんは、次のように語られた。

（自身が小学生だった頃）信頼を裏切られるような残念な先生にはおかげさまで出会わなかったので、6年間それぞれ個性は違いますが、楽しい学校生活を送れていたので、とても信頼というか、楽しい生活を送れていました。

Table 5　調査協力者ごとの過去の教師に抱く信頼の傾向

分類	母親ID	例	出現数（%）
P	F	私、小学校の経験がすごく良かったから、小学校が小さくて、みんなファミリーみたいなところだったから。…	23（46.9%）
	A	思い返しても、好きだった先生の方が多いんじゃないかな。…嫌いな先生ってそんなにいないな。	
	D	信頼を裏切られるような残念な先生にはおかげさまで出会わなかったので、6年間それぞれ個性は違いますが、楽しい学校生活を送れていたので、とても信頼というか、楽しい生活を送れていました。	
	B	（小学校の時）あんまり記憶にない。結構もう先生とか関係なしに、みんなで遊んでたっていうか。…人数が少なかったから、先生といまだに付き合いもあって。…	
	E	そんなに変わってないと思います。…基本的な先生に対する考えは変わってないんだけど、自分が年取ると一言言いたくなるのはあるんだと思います。うちらの方が経験あるんだしと思ってしまったり、若い先生だとそうですね。	
	H	やっぱり先生って、信頼しなきゃいけない感じですよね。…やっぱり一番だと思って信頼してましたよね。…まあ信頼してたと思いますね。	
Amb	L	自分の子と同じようにやっぱり1年だけじゃなくて2年間、5、6年で持ち上がった先生は、やっぱり好きだったかな。	10（20.4%）
	C	いろいろいましたので、あんまり信頼できないなっていう先生、一人くらいおりまして…一人を除いては結構いい先生たちだったんじゃないかなと思います。小さい時に言われたことって覚えてるんですよね。	
	K	小学校の時、あんまり覚えてないんですけど。…1人だけ大好きな先生はいました。なんとなく。	
Nu	G	やってもらってることが、なんとなく違う気がします。なんか自分の時代だと先生が、自分のプライベートで遊びに連れて行ってくれたり、…。なんで、今とは時代も違うんだろうと思うけど、	8（16.3%）
N	I	子どもの時の方が先生のことを信頼してました。5年生くらいまでは。…信頼できない感じになりました。…なんかもう。思春期でやる気なくなって、まああんまり覚えてないです。小学校、中学校とか。	8（16.3%）
	J	自分が小学校の時は先生すごく怖かったんですよ。どの先生もすごく怖くて。…私喋るの苦手で、友達の後ろに隠れてるような、全然手も挙げないし、すごい学校行きたくないっていう、できたら休みたいっていう子だったんですけど	

注：Pは肯定、Ambは両価、Nuは中性、Nは否定を示す

Table 6 過去の教師に抱く信頼感と担任教師に抱く信頼感の対応

過去の担任教師に抱く信頼感 ＼ 担任教師に抱く信頼感	P	Amb	Nu	N
P	A、B	E	D、F	H
Amb		L、K	C	
Nu		G		
N				I、J

注：太字アルファベットは母親IDを示す

保護者として、母親としての立場と担任の先生の間に必ず子どもがいるので、子どもにとっての母親は担任を信頼していることこそ我が子にとっての安心につながると思っているので、…信頼をしています。

D さんは、自身が子ども時のような楽しい学校生活を子どもたちも過ごせるように、「親として」教師を信頼するように心がけていることがうかがえた。

過去の教師に抱く信頼感は肯定（P）であったが、担任教師に抱く信頼感は中性（Nu）である F さんは、次のように語られた。

私、小学校の経験がすごく良かったから、小学校が小さくて、みんなファミリーみたいなところだったから。…時の流れによってもそれ（信頼）は変わっていくと思う。全部の人とそれ（信頼）を持たなければいけないわけではなくて、絆の強さみたいなのは先生と親（で変わっていくと思う）。…親の価値観と学校の価値観と子どもの価値観が違ったら、やっぱり合わないんだよね。…

F さんは、自身の小学校の経験がよかったが、時代や環境、価値観によって教師への信頼感は変わってくることを述べている。

過去の教師に抱く信頼感は肯定（P）であったが、担任教師に抱く信頼感は否定（N）である H さんは、次のように語られた。

(自身が小学生だったころ)やっぱり先生って、信頼しなきゃいけない感じですよね。…やっぱり一番だと思って信頼してましたよね。…まあ信頼してたと思います。学校で私も教員の資格を取ったんですけど，…私が受けた講義の先生が道徳授業反対する先生だったんで，あのくらいから先生は自分の意見を押し付けてはいけないんだなって思いますよね。考え方が変わってしまった感じあります。信頼はしてないですよね。その人の考え方ですから。ちゃんと授業をしてくれれば、それが第一で。…

H さんは、高田・鈴木（2023）における設問への語りから、教師の言うことに納得いかないことがあっても、受け入れてきた過去の経験が推測されたが、大学生の頃に価値観が変わったものと思われた。これは、青年期（特に高校生）において不信の芽生えが最も生じやすいこと（天貝，2001）と関連していると考えられる。H さんは教員免許を取得する講義において過去の教師に対する不信が芽生え、それを克服することなく現在に至っており、担任教師に信頼感を抱かないようにしていると考えられる。

E さん、D さん、F さん、H さんの語りから、母親の過去の教師（自身が小学生だった頃の教師）に抱く信頼感が肯定（P）であっても、人生経験や時代の変化、環境によって、担任教師への信頼感が否定（N）や中性（Nu）変化することがあることが示唆された。

⑵ 過去の教師（自身が小学生だったころの教師）に抱く信頼感が否定（N）である保護者（母親 ID：I、J）

I さんは、次のように語られた。

> 子どもの時の方が先生のことを信頼してました。5 年生くらいまでは。…信頼できない感じになりました。…。思春期でやる気なくなって、まああんまり覚えてないです。小学校、中学校とか。小学校の時は、周りが全然田舎だし、先生しか知らないじゃないですか。今は、いろんな人を見てるから、見方が違う。上司もいるし、大学の先生とかの授業も受けて、…視野が広がった。だから、ちょっと厳しい見方になってるのか。今の先生は、いいところを見つけようと思っても、今のところ見つかっていないので、もうちょっと先生と話したりしないといけないのかなと思うけど、そのタイミングが今ない。（先生も信頼しようと）思い始めてる。親と先生が、ある程度あなたを信頼してますよっていう関係になれば、先生も子どもに目を向けてくれると私は思ってるから。

I さんは、自分の経験を振り返り、環境の変化により、視野が広がり、担任教師を見る目も厳しくなったと語られた。そして、職業上（対人援助職）の経験を経て、教師と保護者の信頼関係が、子どもの安心につながることに気づき、保護者の側から担任教師に働きかけようとする姿がうかがえた。

I さんの語りから保護者となった今も過去の教師との関わり経験やその時の思いが保続されていることが示唆された。これは、中学生の過去の「教師との傷つき経験」が現在の教師に対する「不信」に影響を及ぼすという 中井（2009）の結果を支持している。しかし、I さんには、「親として」の役割を重視して、子どものために教師に歩み寄ろうとする姿もうかがえた。

Ⅳ　総合考察

まず、**質問項目 1** の結果から、母親の一般的信頼感と担任教師に抱く信頼感は関連があることが明らかとなった。しかし、担任教師への信頼感は、特定の相手との直接的な接触から得られる直接的な情報と、間接的な情報に基づく信頼であり、他の人からの評判、社会的地位、役割などの社会的カテゴリーなどの人格的信頼や、相手が自分に対して好意的な態度や感情を持っているという種の情報にもとづく人間関係的信頼も含むとされる情報依存的信頼（山岸，1998）としての側面が強く、一般的信頼感とはその性質が異なることがうかがえた。

次に、**質問項目 2** の結果から、母親の過去の教師に抱く信頼感は、保続されていると考えられるが、人生経験や価値観、時代の変化、環境によって、担任教師への信頼感は母親個々に変化していくことが示唆された。特に、保護者の人生経験や価値観が強く影響していると考えられる。

質問項目 1 の I さん、**質問項目 2** の D さん、I さんの語りに見られたように担任教師に否定的な信頼感を抱くことは、子どもの安心のためによくないと考え、「親として」の役割を重視して、教師に歩み寄りを心がける保護者も少なからずいることが明らかとなった。特に、一般的信頼感、過去の教師（自身が小学生だった頃の教師）に抱く信頼感共に否定（N）であった I さんの語りからは、担任教師に抱く信頼感が「親として」「職業人として」発達していることが認められた。

信頼感の基盤は乳幼児期という人生の初期段階に第一に獲得され（Erikson，1959/2018）、生涯発達していく（天貝，2001）と考えられている。I さんの語りは、母親は父親よりも自分自身が「親として」変化したと感じ、子どもの年齢が上がるにつれ「柔軟さ」を、職業を通して「自己の強さ」「柔軟さ」「自己表現・自己主張」を体得する人格的変化が見られる（目良，2001）という結果と一致していると考えられるであろう。

インタビューを通して、12 名の母親一人一人の背景の一端にふれることができた。そして、保護者の語りの多くから、子どものために保護者の側から担任教師への歩み寄りを心がける「親として」の役割がうかがえた。多くの小学校において学級担任制をとってきている我が国において、小学校教師が子どもや保護者にとって重要な存在であることを改めて示していると言えよう。また、今回の結果からは教師が保護者とよい関係を築くことができていると評価していても、その背景に保護者からの支えがある可能性があることもうかがえた。よって、教師と保護者の連携を図るうえでは、教師の側からも保護者を理解し、寄り添う姿勢

が求められるであろう。さらに、教師と保護者の関係を調整する役割を担うこともあるスクールカウンセラーとしては、保護者のカウンセリングを通して保護者の背景についてアセスメントすること、教師とのコンサルテーションを通して保護者と教師の認識のズレを調整することがよりよい連携を促進するための一助となるであろう。

Ⅴ　今後の課題

本研究では、教師と保護者の関係に焦点を当て、保護者を調査対象として、保護者が教師に抱く信頼感について質的に検討した。しかし、倫理的な配慮から保護者のネガティブな語りには触れないように心掛けたため、実際はもっと複雑な思いが秘められている可能性がある。調査の難しさがあるが「保護者の不信」の背景について検討することでより臨床に生かすことができる検討が可能になるであろう。また、保護者の一般的な信頼感や過去の教師との関わりについての分類や対応表に基づく検討に際しては、信頼性・妥当性に欠ける点があることは否めない。今後は、一般的な信頼感を量的に測定することや、保護者の信頼感尺度の開発、更なるデータの蓄積が求められる。さらに、教師側の信頼感も含め、教師と保護者の双方向の信頼感を対応させて検討することが期待される。

付記
本論文は、第一筆者が愛知教育大学大学院教育学研究科に提出した修士論文（令和3年度)の一部を再構成したものです。研究にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

天貝由美子（2001). 信頼感の発達心理学. 新曜社.
中央教育審議会（2021). 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申).
https：//www. mext. go. jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4. pdf（最終閲覧日：2023年11月5日）
原田宗忠（2015）. 発達障害の可能性のある児童・生徒の入り口支援時における教師の関わりー保護者との関わりに焦点をあててー，愛知教育大学教育臨床総合センター紀要，6.
片口安史・早川幸夫（2000）. 構成的文章完成法（K-SCT）解説. 日本総合教育研究会.
川喜田二郎（1986）. KJ 法ー混沌をして語らしめる. 中央公論社.
松田徹（2011）. 教師と生徒・保護者とが互いの信頼関係を高められる学校を目指して～校内連携システムの構築と校内研修体制の確立～，愛知教育大学教育実践研究科（教職大学院）修了報告論集. 2, 243-250.
目良秋子（2001）.「親となる」ことによる発達（1）日本教育心理学会総会発表論文集，43，64.
村上達也・鈴木高志・坂口奈央・櫻井茂男（2013）. 小学生における担任教師に対する信頼感と担任教師の行動・態度についての評価の関連　筑波大学心理学研究，45，91-100.
中井大介（2012）. 生徒の教師に対する信頼感に関する研究. 風間書房.
中井大介・庄司一子（2006）. 中学生の教師に対する信頼感とその規定要因　教育心理学研究，54，453-463.
中井大介・庄司一子（2009）. 中学生の教師に対する信頼感と過去の教師との関わり経験との関連　教育心理学研究，57（1），49-61.
杉本希映・遠藤寛子・飯田順子・青山郁子・中井大介（2019）. 保護者による教師の信頼性認知尺度の開発とその関連要因の検討　教育心理学研究，67（3), 149-161.
鈴木健二（2012）. 学級経営における学級通信の役割, 愛知教育大学教育創造開発機構紀要，2，103-111.
高田実香・鈴木伸子（2023）. 保護者が小学校教師に抱く信頼感についての質的検討ー母親のインタビュー調査から，愛知教育大学教職キャリアセンター紀要，8，85-94.
山岸俊男（1998）. 信頼の構造ーこころと社会の進化ゲーム. 東京大学出版会.
やまだようこ（編）（2006）. 質的心理学の方法ー語りをきくー. 新曜社.
米澤基宏・尾﨑啓子（2012）. 保護者と教師間の信頼関係構築に向けた成功プロセスモデル　埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，11，15.